365

内閣文庫

和書	内閣文庫
七五二七九	一九九函
二冊	一七架

内閣文庫

番號	和 75279	
冊數	2 (1)	
函號	199	365

199-365

国立公文書館
National Archives of Japan

七二五二番
明治十六年購求

大橋集水園奇品

何蘭陀本國焼

雲停寫

大橋い大久保の人や其園を集水園と称す稀年は是
栽来ちりせまふ所の草木数多繁昌也
一木培養に長るに依て盆に夏水を安南和蘭呂宋等
の諸海あの舶上を集め唐土製作の器といへども西肥上茅
品を愛沢佐て花木是を為ふ是輝を移す其業難人為よりて
繁とし一年細業を乗大五種写真一新楊して同好及
諸名姑より頒ちて一時の興を共にし世と南燿の種類ふ形つく
一に世人備を作る為し渾て戯を尚じ珍品珍芸を重んじ性豪邁な
豪象也　文政七甲申年　應受人ゝ雪谷吾書

擬三十六歌仙槙

永島山ウブ出羅漢槙
窪田南蠻、
水野万代、
下り石花、
高室南蠻、
鳥山南蠻、
上田ヒハ茶、
水野丸葉、
白斑入長葉大、

長葉松平、
三五郎針葉、
孫次永嶋羅漢、
弥七南蠻、
孫次南蠻、
小右衛門ウブ出南蠻、
飯田黄斑入長葉、
飯田青出南蠻、
飯田長葉紫舟、

青斑入七木

窪田豆葉、アンレンテウ花、大久保海野、
飯田黄斑入大葉大、飯田黄斑金羅漢、飯田霜降、
飯田黄斑入高野羅漢、

青葉五木

飯田針葉楳猴、飯田小葉花、飯田櫛子、
飯田姫葉、飯田米葉、

青葉三木

大橋胡麻葉、小三郎達磨、亀五郎花、

掃込海野、
相馬白斑徳若白出羅漢、
山梨猿猴、
四谷海野、
大野花、
金王翁、
飯田枝替南蠻、
水野青出南蠻、
水野細葉、
極黄小葉羅漢、

飯田茶筅、
飯田小葉砂子、
飯田丸葉花、
飯田鮫尖、
飯田高野羅漢、
飯田白斑青出長葉、
飯田極黄長葉大、
飯田縁抜柳葉、

天竺柳
宮重ハ
番街の
人海
盆栽成
天竺柳
天竺九年母

園芸の高尚
雪白の
珊瑚
今紫花を
初咲
いとも球小形
なるせかうやまさ
成世庚八麹早の名園すべて
奇品珍品
まう

作楊 黄金ひすひ

初秋の頃より
まつ[illegible]
黄金上等の
[illegible]

作楊 姫奴こんてん

作楊 ゆうぞ 赤ひ

赤ひい京
丸くちやう
[illegible]
形状

雲停

[illegible]
舊来奇品の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かけひ

雲停

松本ハ半笹赤城下ハ住ム姫人の間あり

涌つぐさハ多つやよくてひこ
ことふすぐれたり
山ゝ多花ハ白花ハ山ゝ地殿上
庫利ハよく物ちげく多愚あり

和田幸ゝ甚子
春也青山ゝ住
ゝふ山野ふ涙
行ゝて奇花を索ゝも

いハがゝ
岩上ハ青山ふ住ム岡さる
ゝぐゝ白霞輪ハ尤奇観
ゝふゝ同時ふ翁と
番町窪喜巣鴨植亀ゞ
家ゝふ葉形斑色ゝ
ゝも迷ざるの山ゝ
一奇幸ゝ翁名ゝ
名づけて四軒ゝゝ

一ぶんの奇品
ちりさま
てるかまさの
英樹を愛賞
他の品と
殊あり
二番町
崖田出のせうくハ
ぢんてうけさ
崖助
ぢんてう
崖助
まさ

鈴木ハ品を
仲南門と
いふ番町
久世家の
臣あり務
のいとまに
奇品を翫ぶ園を南天を愛樹して
枝をかぎつるとふくもを植て
遂ふかうを尽をれをよつて
うんもと銘を
そぐ仲 うんもん
そぐ仲 とんこひさぎ

又其子勇馬ル
ついで奇品を
愛シ今父子ともに盛ん
種樹を
好する人色ハ色より
美なるを

紀藩阿部ハ青山の人舊来種樹を好ミ殊ニ茗を愛常ニ曰
夫茗の德ハ色其氣味苦甘無毒ニシテ痿癖を治し疾蚘を去り渴を
止睡を少し志を悅しめ力を添氣を下し食を消す故ニ唐の德宗ハ
茶の稅を始宋元の世尤盛ンナリ陸鴻漸ガ茶經桑君謨ガ茶譜丁謂ガ
北苑茶錄其餘を述其品を著ス亦蒙山中頂の茶ハ久く宿疾を
祛用ヒ四兩小至ル地仙と為ルと六經ニ茶を載ス或人の誤ハ

楊升庵が丹鉛録師古が漢書の注を知るべしされば栄西が賜ふ
皇朝中古ことを愛筑前の脊振山山城の栂尾ハいと高くれと宇治内津又
阿部薦野相良の外茶を産せざる國もなく茶を嗜ぶ家多くされば
和漢其氣味を賞する者ハ常ゆ有さぐ其樹を愛する者を聞き其
花を詠ずる者歴ゆ俳諧者流のこと其茶を賞して氣味を賞する八真の
茶を賞する者ゆ非故いふとかれば已食用ゆ充る時ハ必其芽を摘其葉を

摘極て其樹を傷ぬ曲ゆ陸羽盧同八茶の
賦ゆ伯鷗宗易ゆ茶の疑ゆ和漢千古
真の茶を好む者唯ゆを有と云

世に眞江田と称する南燭の斑なる雪月巻
落葉深く黄備ひ多く皮白ふなり
はなはだ蒼白なる駁物 枝葉南燭
諸家に多く
古菊者らのごとく闌
翅葉より榕樣菊燭
亦葉小にして一本ごとに
[illegible]

其頭を今乃山高の弟祖母とふ年ゐる法人ちり
そもさこのさくこのくさく新弱そこらきもよ切いふく
たいもこ弱なすとも好みくこいみこよこるせうまた
うなひとともあ社所よの藤の木をこうすとなつ
後ひらき國と薬苟とあるこやなひ名やーき
かとうすいもなを色をめで多のやーなを主こすす
人みな女のあ社すきこいとこすーこけづき
たかとすあくふなみくふ社こよのつもの
女とい心ざ女とらうあぐ鶏くやさひとりふのいたーでこと
あくもみをけ彼と十星ほるつの主とのうけふけ
あそびけりきてあ人ーたなやあてハきーびといつり
つらやみきこ色よ人人てけ主ま

山茶二種
こまつるらめ
つ春ふかの
花あり

きふ
ひろ
つばき

豊島屋
関口水道町の高家
にて二月朔日乃好人
奇品を集む

図さる迄よく樹い白雪を
帯びたる柳のこと

とし図る迄よくひだ

千代春万つとめ

万つとめを美こまつる
枝多くけちて
よく成しちくを
鞠の如くに
ちりくに一段の
おうちう
二品ともふ愛き
なれる種なること

文橋八七里小居八淺草なる大音精舎の遠よ別墅を
構へ妻へ盆栽を賜へ静境の樂事一ち藏する所の奇品
多くの中小葵八圖を地栢八年来培養の苦心中一ち
生ぜる珍品なり雪を欺く白魂玲瓏愛し一つ

上田氏
四谷
大番町ふ
住氏
別号
を錦林亭
と云多年盆栽を好む
但獨立一家の好士なり

上田ひさぎ

上田ちやぐしまき

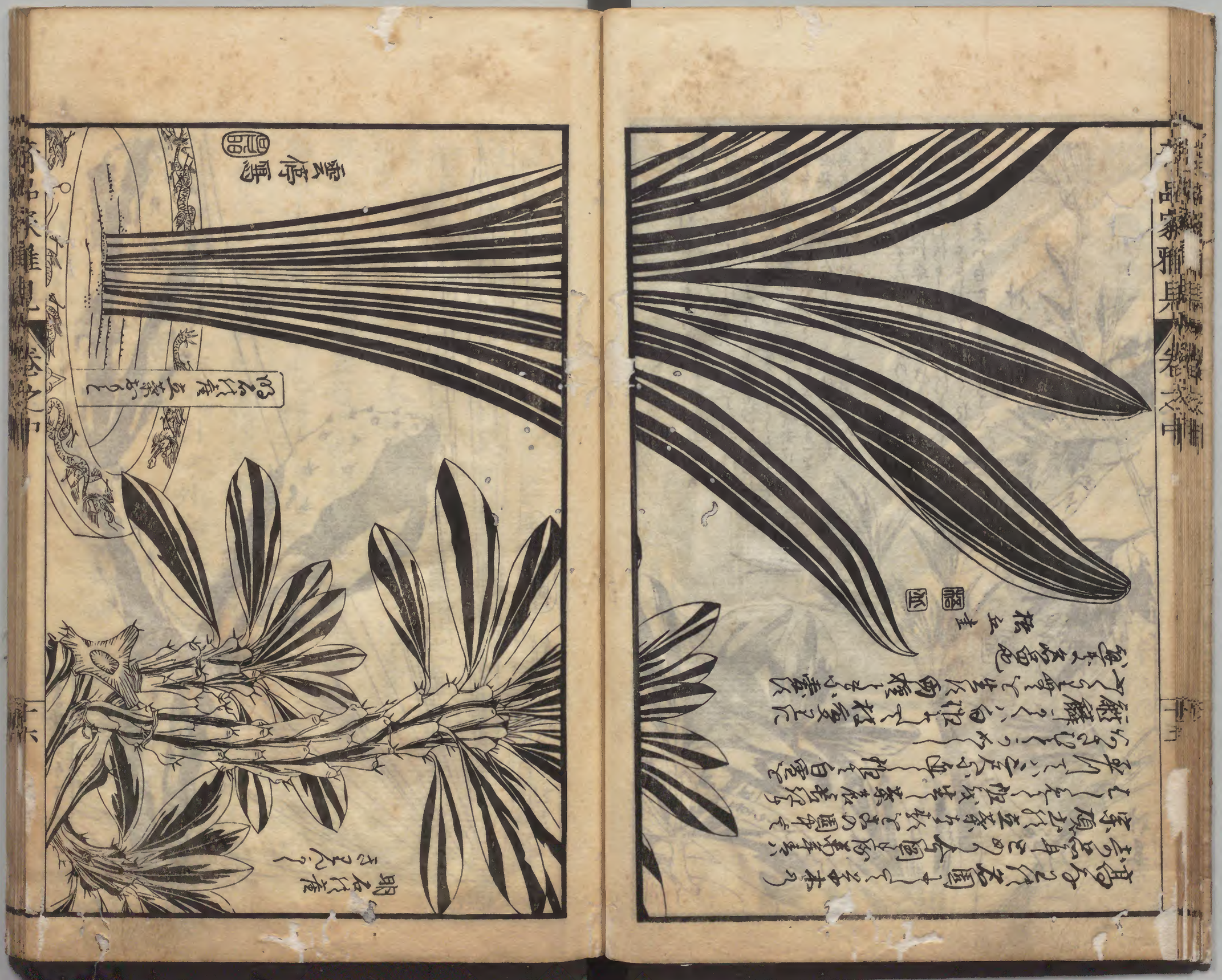
竜鳳竹

長崎ハ番町の人夫妻
ともに盆栽を愛せよく
和樂すゝ云
ゞ〜

車屋平藏北沢の農家なり爽老に至すゝ
尚怪奇を事とす家に奇品多〜

国立公文書館
National Archives of Japan

瀬田村行善寺と別号似明亭と云
接ぎ木は妙人なり
今ら迄たくさんにたちうひやくなりを作へ
この方と唐くす能中蘭也と雲と
る他よこくくる蕗く実はきく蕗にて
あくくの新系出印は甲乙の撰夫にけり
會合くくこれとくくくむ方月一を
無極くくくく



国立公文書館
National Archives of Japan

高橋翁不言齋江戸城西大窪里之隱士也初住于城南芝街後避其熱鬧喧囂而徙此焉翁性愛花卉不啻愛之專精思於其培養若夫覇王樹之有豹斑及石菖蒲之稱山吹者山吹者初秋蕚至春不更色其色与世所謂山吹者相似因有此稱本邦有之者實翁培養之妙術令之然矣其用心之至又悟盆栽之妙訣於是乎尋常花卉則勿論雖海舶載来之異卉奇花移可以供盆盌之玩故劇職之官士煩業之估人不窺山莊別園得以對花卉於明窗淨几之間不亦愉快乎今茲文政乙酉九月方外之友某来請于余記翁之小傳曰記其顛末以應之云

混外野衲宥欣

夫七種ハ春と秋とニ分る　万葉八三十　山上臣憶良詠

秋野花歌二首

秋野に咲有花を指折可伎数者七種花其芽之花乎葛花瞿麦之花女郎花部志
又藤袴朝貌之花と云云　いとゆ、しき哉　朝顔の　二種　分る　その
諸家　論　分る　こと　長月　ばかり　宮　花　松園大人の　説　年
和名抄　分る　春　年　分る　人　分る　蕃　草　こと　処の　蔓草　こと　早　云
ものゝ　種ハ　懐風藻　夏　種　もと云云　俗間　分る　種　分る　もの　多　分る　也
和名抄　云云　舶来の　枝葉　花　の　一種　天武紀　分る　朱花　を
見る　考　別　ある　説　剪撰字鏡云　桔梗　も　種　刻　末の　下　刻　説
ゆゑ　の　中　背　絵　分る　ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　女房の　ひ　牧の　七種　を
ある　図　分る　桔梗　分る　桔梗　と　き　長　七種　ハ　と　後の　ものゝ　大日本史
寛平　年中　を　語　説　裕芽抄　飯食　部　分る　土　種　若菜　を　出　枕草子　分る　ハ　れ
ある　も　同　さ　也　又　同書　分る　七種　菜ハ　蘭　藜蒿　芹　須々之呂
佛座　と　云　内　年中行事　秘抄　分る　処　今　は　公　夏根　云云　内蔵寮　る　と　び　年
内　雑司　分る　正月上ノ子日　を　奉る　寛平　年中　分る　始　て　事　や　延喜十一年

正月　百　小　後院　分る　七種　を　菜　と　説　云云　同　ある　分る　十二種　し　裕芽抄　分る　大
月　資益王記　云　文明十三年　正月六日　自松尾　若菜二合　進　云云　今も　松尾ノ社　日
分る　奉　と　し　ゆゑ　我　国　と　ある　若松　を　し　て　中　ゆゑ　辛　り　和名抄　り
薺　那奈都　蒸　煮　之。　藜蒿　倭名抄　味酸　辛　無毒者也。　芹　水芹　味甘　平　無毒　云云
菁　名之　蔓菁　阿乎奈　右四種ハ本草和名　和名抄等ニ出ル　詳　故　七種の　説ハ
散木集　夫木抄　袖中抄　裕玉集　五百番歌合　より　出る　ども　中ハ　説　名　同　意
ある　故　説　多　ある　と　云　云　。　菘。　蘿蔔　を　古名　分る　ば　と　云　も
甚根の　説　分る　ある　分る　加茂真淵　春　さ　と　云　み　花咲　分る　君
来　ます　と　ハ　り　ひ　ま　ま　や　ま　ま　ま　ま　ま　吹　田　説　分る　御形　佛座ハ
又　後の　俗説　故　諸家　説　説　定　説　説　鼠麹草　一名　母子草　と　て　御形
と　と　と　

[illegible]

四季咲　真顔

[illegible]

遠栗園　石樹

[illegible]

佐渡国　馬

[illegible]

山東京伝

[illegible]

蜀山人

[illegible]

五葉亭　亀山

[illegible]

伯耆国　大表

浅葉ゆづり
浅ふ白覆ちや
葉みまを
ちるこの上覆あり

ぢんあいぶふみづき
ぢんあい ひさご
ぢんあいはゆづり
ぢんなへハ千駄谷の人元小石川
身出せし奇品よく
人の口碑に伝ふ
阿波屋町
住ち

米幸、八商家あり赤阪ゝ住ち
盆栽を好ミ奇品を愛し
生涯一日も倦こゝをちゝ
くなん

斑入七本　鈴木ろこ楸　朝倉きふ楸　昌慶紅のけ楸　中西根元楸

古弥七紅のけ楸　亀五帝寂上楸　(ふの)きふ楸

茂井小葉伽羅引楸　樋口細葉青出楸　隠岐細葉楸

小葉五本　(ふの)細葉舟底楸　大塚長次丸葉伽羅引楸

日高特斑入本　讃岐楸　(ふの)楸　寒河楸

青葉形三本　志賀ちりめん楸　永島まき葉楸　隠岐黒出楸

青出斑入三本　上田楸　大橋ちり雲楸　ひかり楸　池亭楸

又楸につげ葉楸ハ小葉の樅ハ出女そ〻ゑ有く
一〻すゝとゝ云

古今奇品を世ゝ人ゝ少〻〻ゝ予ゝ集ゝこれをあさこゝとの楸を多く集さの
ゝ二十一品を小幾小梓行〻て世ゝ間ふ人ゝまゝこの書ふ二をゝを載ゝ己

あのゆ

隠岐芝交八廣尾久種樹ふ長ゝ〻ゝこゝふ楸の奇品を好ゝ愛類を廣く集今こゝふゝの名幾を年代考く

五合ゑ小日向産のうち舞子一の寄
所多種義繁なる事化よこはたり
図する言葉ハあ色の姫ゆ丸て班あく
出る事ハ大ハとき所とく業班ゆて枝
数多也青木ハ業形鹿甲ゆ似事
班也りよこみのり言ハ寄親とふ
丙戌ハ業　紀州　魏山

あひのふるさとの
大坂こしを多く
くさかをうに
入るう
呂田の名
岡田の
白山の人ち
はるかいその花紅のうちよ
白きまぶくしを大きく入るうこ
花名 乱指子
この山人字

一年ものの
此種を貢ぐ
子白きる白玉
のごとく其後又
培養を加ると
いづれつぶみ子
を結ぶ
本多 ものそ おぎ
本多 ものこおりて

撫子ハ葉茎共
細きて糸の如
僅二三寸ゆ一て
よく花を開
花の色ハ
くれなゐ
志ぼりあり
あり

大原雪朝ハ青山の人なり畫を好み和歌を詠し俳諧を能せ
ず年来の種樹家なり松柏及諸種圓形を造り立花造ル
成す事花姑も及ざる云其母雷を畏事甚し桐傳来樹克
雷を避ると由て桑の種類を栽して多く貯自己嗜好の
中ハ孝心を離さず真至誠古人ハ恥ずといへども雷を避るの手段
ハ彼臍を抱て笑ひきわ

来の新樣を作て愛ず其育その妙
なるハ他ハ類ひなく仕て仕来
いとくさ八水鳴出るも樣を作て仕来

仙波ハ南芝の人ゝ其豪富東都の中五指を屈ぜゝ種樹を愛ゞ為ゝ銀弐の別墅ゝ隠居ゝ奇石を好て盆栽を多く集む斯人ゝ一見を成ゝ故ゝ珍品奇種不日ゝ福湊ゝ衆人其盛ゝ眩耀ゝ元来多能ゝ詩文書画及他の雑技ゝ至るゝ迄ゝ研究ゝ酒茶の間ゝ遊戯ゝ無もゝ其生産を忘ゝ寶ゝ大平の逸民ゝ謂つゝ

英虫と称するは椿田系に名園第二
世さかいしても図する慶の南天八橋
幹より瞬紫竜生して四季と変小紅
白斑色変さて其貴後茶壺
陶器迄用ひて今楊老人是を称す
孔雀乗ても斑過ちより是を愛する
事なり

松堂

左内出玉心屋の芍薬
高麗高麗しく花開
乃国あり花弁多く
くくりの中に数
あり加る
国に数玉様を載
あくく野くの
これくく主人の
つ故に国出
六十七花蕚

大野
大窪
住
積年の
盆栽家
なり

山田の青山の人なり
盆栽をよくせり
この人年いよいよ老て耳をひくれと
拙なのなきゆゑ
つまらぬことなり
布施布山の牛込
乃人也
ふせのくさ
盆栽
山武あけぼのかや

国立公文書館
National Archives of Japan

杉浦ハ
礫川ム
住ス園
ス金銀
竹柏一樹
ヲ以テ黄
斑ト白斑
ノ枝変
希代ノ
奇品ニ

国立公文書館
National Archives of Japan

勤八出し称するもの彩品あるよし
なれど詳なるはされこそに異なて
かくしてゝ仲屋出よ似くまぶ形ものと
長く形状つゝ自ーき奇品なり

岩切ゝ
白銀の人なり

雷田蘭
兒元目
白髪の
人後年
四谷よ
住まま
樹何し
り人て
るく変
も時よ
梅花を
姫花姑
乙吉う
ゑくむ
面の梅
甲乙附
を校合
して自
ら刀を
執り上
木せ
ととと

伊藤八國分方の
住まを勝蔵と稱し
其所の里正なり京攝及
諸州に遊歴し奇品
を交易す職を辞て
後尚盛ゆ一時勢の
強きる今植好士
の耳底遺さう

国立公文書館
National Archives of Japan

佐橋ハ二代の盆栽家ニ
廣く和漢の種を集中
庭一日も花あらぬなし
よって四季園と号ス
奇石樂苗ニ至りまで
彼我の称呼泥絆を
正ス志厚し

作法　ちんぐんぐ

又家秘の藥を世ニ
公ふオ其仁
作ニし

作法　ひりちんひだ

玉のごく
白し

作法　伊達ゆきまつ

霍田里鶴ニ番甲御厩谷
ニ住ス草樹何ともなく
花葉を作り多く盆栽ス
類人

園ニ
黄ふよく
姫ゆり黄
この
いつ

作法　霍田里花　ちみさ

作法　霍田里鶴ひしん

市ヶ谷山伏町常敬寺
おれひさかたの柔毎
白きはゝ
康のふれこゝ
ゆゝ
お形を学ゝ
義るゝ

[illegible]

[illegible]寺ことゝ

畠山
黄金とち

畠山黄金とち

畠山黄金とち
畠山の国の方
ふ住ゝ盆栽家
其種る器ゝ具ふ
自制衣ゝ
工ゝ及ゝ
培ゝの勝ゝ

ちりけやまひさだ

あひのふひよひど

松嵩主巣鴨の人音品を
多く集好人訪ここ聞あり
此家に在所のあひの斑り
南天燭ハ斑り延ひよき品也

のちさえのこと

麹菌赤ハつゆハ
よく種蒔ものハ
形成ものハ
ものハ

このちくさ
のちくさ
実ハ赤
実ハ赤
実ハ赤

珊瑚珠変葉蘭

城北根津
別當所
何其
所愛
也

枝葉
他品異
自然有珊瑚
象故名爾

東玉画

赤井ちや

赤井八巣鴨ふ住す圖する所の茶木ゝ實生すゝ〳〵て葉の形
斑の形上好すゝ〳〵藏さゝ家の名を蒙らゝて光を揚るゝさ
奇品すゝ

黒埜ゝ番街御厩谷の人ゝ
曾〳〵ゝふの本末ゝ丹甲乙
佐ふ丹ゝる紙ゝを用ゝ寮〳〵
ゝゝゝゝゝ

図ゝる所ぎいを
ふの物ゝゝゝ
枝葉ゝゝ
名ふ

黒埜ゝ番街御厩谷の人ゝ
曾〳〵ゝふの本末ゝ丹甲乙
佐ふ丹ゝる紙ゝを用ゝ寮〳〵
ゝゝゝゝゝ

図ゝる所ぎいを
ふの物ゝゝゝ
枝葉ゝゝ
名ふ

黒埜ゝ番街御厩谷の人ゝ
曾〳〵ゝふの本末ゝ丹甲乙
佐ふ丹ゝる紙ゝを用ゝ寮〳〵
ゝゝゝゝゝ

図ゝる所ぎいを
ふの物ゝゝゝ
枝葉ゝゝ
名ふ

黒埜ゝ番街御厩谷の人ゝ
曾〳〵ゝふの本末ゝ丹甲乙
佐ふ丹ゝる紙ゝを用ゝ寮〳〵
ゝゝゝゝゝ

図ゝる所ぎいを
ふの物ゝゝゝ
枝葉ゝゝ
名ふ

雲州封君廣瀬侯ハ四隅の名園繁こる盆栽この事てかたるに図する南燭ハ許多の星霜を経ておゝの根株ゝ巖のごとく細葉軟枝具者あくまでもし赤櫛の木ハ其葉龍雲に乗する形の如し因て雲龍とゝ二種共ゝ古今の奇品なり

冨樹樹主人

種對家繁亭金杏。摸輯當時都下諸名園中所有奇花異卉凡若干種。以爲一書。將行于世。聞余家園有一二變葉者。來請。余顧瑣亡弊園。何足以稱奇品。示諸世間。恐取大方之咲。固辭不許。於是摸寫其一二。以塞責云

旭溪花隱栢對園主人識

櫟洲居士書

鷲の爲

二代の盆栽家ろう
愛る物を圓柴
みしてのちさんに
黄班しまりつく
一木とも色〻

ふくりんかなら

上原羊鬼富巣暗み住〻
寿長とも歩と沢尤長寿みて
五條葉く知る其ふい
青山み住〻仙名を
月庭安形夢と沢

跋入九条和き

幡屋い成子新町
農商を業とも

家ちなう ふして
実よ一芳品と
いふ也

やるる芳春より夏まく
藤の事 緑めくく
いろくとちくふまろ

樣仮ふくの

ちく長茶の木

須麻ち大久保北町小
住ーて園中彦ーて
奇品いろ〳〵ある花木
庭物をぼちぼちひやーるひと
ぢ翁乃門人百とりて
〳〵ふる。の
ーよはれちく〳〵
口板を作〳〵ちく〳〵ちく

四苦野やーきと
京根吉八多年
盆栽の西人ち
ぢちのひやーがひふ
ぐを作〳〵ちぐ品やとちる
右原ー
園ちる高てるハ
葉〳〵ちく〳〵ちり
ちく作ぬよし
ちのちちち
ふちちん
ちちち
ちち葉ちち

福寿草の八重咲ハ
[illegible]
又本草出
[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪峰大圓翁と四谷の人有て世書ふ序文を添生字を表む雲もくる寄幼人唐児嶋業ハ白沢龍よして丈高く業のなきふ至てハ四五尺は及ぶ

義孩ハ如稚よてるの地ちう二株を小名品と云つ

国立公文書館
National Archives of Japan